

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

---

# ゆっくりでも歩き続ければ 結構進む

---

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **伊藤 純子**

---

## はじめに

---

みなさん、はじめまして。私は平成24年4月に3年次編入で入学し、平成28年3月に卒業しました。在学期間は4年。当初の計画から随分と時間がかかりましたが、何とか卒業することができました。

私は、看護師、介護支援専門員の資格を持っていて、勤務している高齢者介護の世界では歓迎されることが多いです。でも、「資格」という看板を取ると何も褒められるものはなく、対人援助には全く向いていない落ちこぼれでした。「辞めようか」と考えることもありましたが、辞めるのは「介護・福祉」の世界を一度しっかり勉強してからでも遅くない、と考えて東北福祉大学に入学しました。

働きながら学ぶことは思った以上に大変で、「辞めようか」（また！）と考えるときもありました。そんな時に届く『With』の「現場から現場へ」を読み、先輩たちの頑張りに将来の自分を重ね、励みにし、何とか卒業までこぎつけることができました。その自分が今度は皆さんに読んでいただく側になるなんて、人生ってわからないものだなあと感じています。

## 近くて遠い学び舎

---

私は東松島市に住んでいます。仙台までは約30キロ、JR仙石線で1時間弱です。

しかし、私が入学した平成24年は東日本大震災の影響でJR仙石線が一部不通で、私の住む地域からは代行バスが運行していました。代行バス

→JR松島海岸駅で乗り換え→JR仙台駅で仙山線に乗り換えをしてようやく国見キャンパスに到着しました。代行バスとJRの乗り継ぎが非常に悪く、所要時間は乗り継ぎが良いときで2時間30分、乗り継ぎが悪いと4時間以上かかりました。また、代行バスは道路事情が悪く交通事故があったり、JRは天候により遅延が発生したりと、大学に到着するまではいつもヒヤヒヤでした。

朝、まだ辺りが暗いうちに始発バスを待つところから私の「ひとり乗り継ぎの旅」が始まります。冬は特に気持ちも滅入り、「辞めようか」（またまた！）と考える時もありましたが、私は近い方で、なんとアメリカから通学（?!）していた方もいて、「これくらいで弱音を吐いて・・・、頑張るぞ！」と自分を奮い立たせました。

## 実習させてください！

---

私は実習免除の対象でしたが、あえて実習受講を希望しました。看護学生の頃は実習、実習の毎日で、泣きながら通ったこともありました。それでも、実習で出会った患者さん、看護師、医師等、様々な方から多くのことを学び吸収できたのも実習でした。実習は、大変なこと以上に大変貴重な学びの場であるとともに、社会人になってから「実習生」になれるチャンスはなかなかありません。

実習は障害者福祉施設に受け入れていただきました。当時は雲をつかむような感じでしたが、必ず自分の財産になると信じて頑張りました。卒業した現在、勤務先で障害者の就労支援を担当し、障害者雇用推進セミナーで講師としてお話しさせていただいたり、新たなネットワークができたりと、自分が考えていたよりも遥かに実りの多いものとなりました。障害に関する事柄以外にも、福祉大での学びが仕事や日常生活の中で点から点へとつながって線になり、徐々に面になって広がっていく感覚を日々感じて

います。

## いよいよ国家試験

---

私は平成28年1月に国家試験を受験しました。スクーリングやレポート提出は平成27年6月中に概ね終了し、それ以降は国家試験に向けて受験勉強を始めました。勉強は大学から出される小テストを解いたり、国家試験対策講義を受講したりと、大学から勧められたものに取り組みました。

受験勉強で一番苦労したのは、学習時間の確保です。そこで私が初めに取り組んだのは、学習時間の「見える化」です。

- ① 1週間の目標学習時間と1日のタイムスケジュールを設定しました。始めは週20時間とし、1ヶ月毎に延長し12月には週30時間に設定しました。
- ② 1マス1時間の横棒をA4用紙に8本(2ヶ月分)作成しました(見える化グラフと呼んでいました)。
- ③ 1時間勉強したら1マス、30分なら2分の1マスを自分の好きな色で塗りつぶしました。
- ④ 1週間の目標学習時間を目指してコツコツ勉強しました。もちろん、勉強ができない日もありましたが、目標時間に対しての不足時間は、翌週に繰り越して無理なく目標を達成できるように工夫しました。
- ⑤ 勉強したくない気分の時、模試等で結果が振るわず落ち込んだ時などに、この「見える化グラフ」を見ると、色とりどりの沢山のマスの横一列に並んでいます。一つ一つのマスが自分の頑張った足跡です。「ここで負けるか!」と、また頑張ることができました。試験が近くなって不安が増した時には、「見える化グラフ」を手に取り、「これだけやったんだから大丈夫」と自分に言い聞かせました。

平日は日中に仕事をして19時頃に帰宅。家族と一緒にご飯を食べた後、

21～22時には休みました。そして、家族みんなが寝ている早朝3時過ぎにモゾモゾと起き出し、寝ぼけ眼で洗濯物を干したり、犬の世話をしたりと簡単な家事を行いながら目が覚めるのを待ちます。さすがに4時くらいになると目が覚めますので、そこから2時間ほど勉強をしました。体が慣れるまで辛かったのですが、慣れてしまえばこっちのもの。家族と過ごす時間も確保できますし、試験が近くなってから朝方に切り替える必要もなし。何より、大好きな晩酌を毎晩楽しむことができました！

## 家族の理解と協力があったこそ

---

入学した時、娘はまだ小学2年生でした。震災後、まだまだ不安な気持ちを抱えていた時期です。スクーリングが娘の授業参観や運動会、学芸会等の行事に重なることも多く、淋しい思いを沢山させました。いつもは寝坊の娘でしたが、スクーリングの朝は早く起き、バス停まで自転車で付いてきて見送ってくれることもありました。夫は、不在の間やレポート作成、受験勉強で家事がおろそかになりがちな私に代わって家事、育児をして支えてくれました。私が卒業、資格取得ができたのは二人の理解と協力、応援があったからだと思います。

## おわりに

---

在学期間は4年で、カメの歩みのような学生生活でしたが、ゆっくりでも、あきらめずに歩き続けたことで卒業、国家試験合格にたどり着くことができました。また、やりきったことが自分の新たな財産になりました。

在学中の皆さん、勉強している時、ふと、「孤独だなあ、つらいなあ」と感じる時がありませんか。そんな時は自分の周りをよく見てみると、様々な形で自分を応援してくれる家族、職場の仲間、学校の友人、先生方

等々、決して1人で勉強しているのではないことに気が付きます。そうすると自然に力が湧いてきます。大変なこともあるかと思いますが、必ず自分の財産になりますので、どうか体に気をつけて頑張ってください。

最後になりましたが、先生方、事務の皆さん、本当にお世話になりました。また、このような貴重な機会を頂戴し、感謝申し上げます。